

## ◆◆◆ 大気中の主要温室効果ガス濃度は過去最高値

### —WMO 温室効果ガス年報第 5 号が発表されました—

気象庁は、世界気象機関（WMO）の温室効果ガス世界資料センター（World Data Centre for Greenhouse Gases: WDCGG）を運営しており、世界中で観測された温室効果ガスの観測データを収集・解析しています。このたび、気象庁及び世界の温室効果ガス専門家の協力により、2008年12月までの世界の温室効果ガス観測データの解析が取りまとめられ、その結果が、WMO から11月23日に温室効果ガス年報（Greenhouse Gas Bulletin）第5号として発表されました。

今回発表された年報によると、大気中の主要な温室効果ガスである二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）、メタン（CH<sub>4</sub>）及び一酸化二窒素（N<sub>2</sub>O）の2008年における世界平均濃度は、過去最高値を記録したことが分かりました。このうち近年増加傾向が頭打ちになっていたメタンは、2007年に続いて2008年も1998年以来の高い増加量となりましたが、メタンが再び増加傾向に転じたかどうかははっきりしないとしています。また、二酸化炭素も引き続き高い増加傾向が見られています。

なお、年報第5号は、気候変動枠組み条約第15回締約国会議（COP15）（12月7日～18日、コペンハーゲン）で配布されることになっています。

世界の温室効果ガスの状況

	二酸化炭素 CO <sub>2</sub> (ppm)	メタン CH <sub>4</sub> (ppb)	一酸化二窒素 N <sub>2</sub> O (ppb)
2008年平均濃度	385.2	1797	321.8
前年との差	2.0	7	0.9
これまでの年平均濃度最高値 (最高値を観測した年)	383.2 (2007年)	1790 (2007年)	320.9 (2007年)
最近10年間の平均年増加量	1.93	2.5	0.78
工業化以来の増加分の比率 (工業化以前の濃度)	38% (約280)	157% (約700)	19% (約270)

注： ppm：体積比で百万分の一、ppb：体積比で十億分の一

WMO 温室効果ガス年報第5号は、以下の URL からご覧いただけます。  
[http://www.data.kishou.go.jp/obs-env/infohp/wdcgg/wdcgg\\_bulletin.html](http://www.data.kishou.go.jp/obs-env/infohp/wdcgg/wdcgg_bulletin.html)（気象庁和訳）

（気象庁ホームページから）